6月27日のウクライナ情報

安斎育郎

❶ ゼレンスキーはウクライナを騙した（2024 年 6 月 25 日）

ヴィンチェンツォ・ロルッソはイタリア出身のジャーナリストで、ドンバスの状況は彼にとって個人的な悲劇となっています。彼はイタリア国民に長年隠されてきたことを語る。

ルガンスクへの砲撃を実行したのは誰ですか？捕虜となった民間人はどのようにして死亡したのでしょうか？なぜ OSCE はウクライナ軍兵士の残忍な犯罪を見て見ぬふりをしたのでしょうか？そしてロシアの一部となったドンバスは今、どのように暮らしているのか。

https://x.com/i/status/1805526629227413545

https://x.com/Monmi0614/status/1805526629227413545

❷ 『安斎育郎のウクライナ戦争論』第 10 版まえがき（2024 年 6 月 30 日）

改訂第10版発行に当たって

研究成果の普及には体力も要る―『ウクライナ戦争論』の普及活動

2023年4月に初版を発行した『安斎育郎のウクライナ戦争論』は、今も普及が進んでいます。
幸い読者には概ね好評で、時々次のようなメッセージが送られてきます。

●「ウクライナ戦争論」読了しました。この戦争の見方が180度変わりました。ロシアは野蛮だから、プーチンは狂人だからなどというメディアの理由付けに違和感をもっていたのですが、この本を読んで、疑問の多くを解決できたように思います。何事もまずは疑ってみることが大事だと改めて気づかされた次第です。本当に有難うございます。

●早速にお手配いただき、ありがとうございます。また、ご丁寧なお手紙まで添えてくださり感激しております。周りは国内の報道だけを鵜呑みにしている人が殆どですが、少しでも分かってくれそうな人に読んでもらおうと思っています。その人たちからまた他の人へと、波紋のように広がっていってほしい。そうなったら嬉しいなあ、と思っています。私たちは偏見を捨て、物事を広い視野から見る必要があると思います。そのためにも（本書に書かれているように）「健全な懐疑論者である」ことは非常に大切ですね。ステキな言葉も教えていただき、ありがとうございました。

●貴著の新版『ウクライナ戦争論』を拝受、感動と共に読ませて頂きました。私は一応ロシア語も分かるので、日常的にロシアのテレグラムやドンバス・ニュース等を見聞きし、日本の報道の酷さに日々驚愕、辟易していますが、貴著で初めて知る事も数多く、その真実探求心に感服し、全てに「懐疑心」を持ちながらも、貴著を今後の活動に活かして行ければと思いました。

●昨日先生の「ウクライナ戦争論」を拝受しました。ネット上の IWJ（岩上安身キャスター）等の YouTube や孫崎享氏やエマニュエル・トッドの著書から、我々が騙されていることに気づいたのは今年（2023年）になってからでした。それ以来ずっと断片情報でなく遺漏なくフェイクを暴露したこうした情報を渇望していました。だから先生の『ウクライナ戦争論』は、一気に読みました。ウクライナ問題に対する先生のご見識に全面的に共鳴します。

連日のように TV、メディアに登場する防衛省関係者や御用「専門家」の無責任で浅薄な放言に乗せられて「ロシアの侵略許すな」や「ロシア制裁・ウクライナ支援」のスローガンを掲げる世間一般はともかく、市民運動・平和運動のリーダーまでがこの流れに呑み込まれて行く様を為す術もなく見ている他ないのか、少なくとも平和運動に取り組んできたリベラル左翼が、自分たちの反ロ・スローガンが客観的には我々の意に反して、極右勢力や改憲派の聖戦論を扶けて、それに合唱する世論形成に加担する仕掛けに嵌められていることに、どうして気づかないのか、と思う今日この頃です。先生のこの冊子を是非とも沢山の人々に広げていかなくてはならないと思っています。

●Fukushima クライシス後の、先生のご活動にも、心からの感謝と敬意を表します！さて、フェイスブック友達の K さんから『安斎育郎のウクライナ戦争論』のことを知らされ、「是非とも！」とお願いして送っていただき、じっくり熟読させていただきました。ボクも乏しい資料と拙い表現で、「ウクライナ戦争」については書いてきているのですが、科学的・実証的・客観的にエヴィデンスと共に訴えておられるこの冊子を、なんとしても広めたく思います。

私は、2022年2月24日、ロシアが「特別軍事作戦」と名づけた作戦に乗り出す前後から、米英発のウクライナ戦争の情報のうさん臭さを感じて、これはロシアを悪玉に仕立てて苛め抜こうというアメリカの新手に相違ないとあたりをつけ、色々調べてまずは講演のためのパワーポイントをつくり、それをもとに2023年の4月にこの冊子の原型をつくって刊行したのですが、その普及の速さに著者自らびっくりしました。版を重ねて、1 万部に近づきつつあります。

私のような知識人の端くれが言いたいことを世に伝える方法としては、情報満載の冊子を格安で刊行し、注文も自分でとって自ら発送までやるというのは、ちょっとした新機軸ですね。何人かの方から「こんなに安く売ってはいけません」とお叱りも頂きましたし、八十路坂を喘ぎながら登っている老人には、郵便局通いには体力維持とパートナーの協力が不可欠です。

元外務官僚の T さんからは、「小生が全く知らなかった情報を含め、誠にいま日本人が少しでも読んでほしいものだと思いました」という感想が寄せられましたが、別の知人からは、「読んだ。ウクライナについてこの角度からの分析は真に貴重なもの。震撼させられた。感激した。個人的備忘録のレベルにしておくにはもったいなさすぎる。万人の目に触れて欲しいと思う」というメッセージが来ました。

また、鈴木謙次さんからの手紙には、次のように書かれていました。

「西側とアメリカの報道はすべて肝心なことを曖昧にし、結局、一切の悪行をロシアに押し付けることで統一され一貫しているように思えた。なぜ、曖昧なら国際的に協力して真相を突き止めようとしないのか。その時期の世界のメディアは極端な一方向に誘導され、作為的な、フェイク・ニュースを大々的に拡散してやまなかった。一方でウクライナの内政問題―深刻な官僚支配・民主主義の欠如などの報道はタブーとさえなったようだった。おかしいのではないのかと、私だけが感じていたのかと、自信がなかった。安斎育郎さんのパンフレット『ウクライナ戦争論』と出会ったときは衝撃だった。安斎さんのパンフレットを一気に読んだ。すべてのことが、合理的に理解された。一切の先入観、偏見をぬきに、事実を積み上げ分析すれば、安斎さんのいうことが明快に胸に落ちた」。

著者としては「読めば分かる」という程の自信をもっていますが、「悪魔のプーチン、英雄ゼレンスキー」という信念に凝り固まった人々は、本書を読むのが「怖い」という感じをお持ちのようです。信念を覆される恐れのある情報に接することは、やはり心のどこかに不安や怖さや身構えを感じるのでしょう。そういう訳で、結局のところ一番読んでもらいたいと思っている人々になかなか読んでもらえないという問題が今でも執拗に残っており、これは今後の重要な課題だと感じています。まあ、著者としては「事実を見ていれば、この本の基本的な主張の正当性は今に分かる」と確信していますが、どうでしょうか。

2024 年の 1 月 28 日に増補・改訂第 9 版を1000部印刷した時には、「これで一区切りかな」と思っていたのですが、月に200部ほどのペースで注文が続き、結局第10版を出すことになりました。

その後も読者から好意的な感想が寄せられています。

●『ウクライナ戦争論』を拝読しました。ウクライナに関する報道が、時代劇の捕り物帖のように単純な善悪の構図になっていることにモヤモヤしていましたが、アメリカの世界戦略、ロシアの進軍の理由などよく分かり、モヤモヤがすっきりいたしました。テレビで見た悲惨な映像のあれこれもがフェイクだったこと、そんなことまでするということは衝撃でした。深く反省しております。貴重な本を出して下さって本当にありがとうございます。

●本当に良く調べ上げて書かれていると思います。ロシア人一家と26年間の交流があり、電話で時々ロシアの状況を知ることが出来ていますが、その方は 1/4 がウクライナ系ということでした。ロシアと戦っているのはアメリカとイギリスだと思っています。2014年から米英がロシアに挑んだ戦争と思います。ウクライナ人が本当に悲惨だと思います。ウクライナ人のために戦争を停止すべきでしょう。

●貴重な冊子をお送り頂き、ありがとうございます。読み進めるうちに、私の中に築かれた「バカの壁」が一つ一つ打ち砕かれていくのを感じ、新しい景色が脳裡に広がる思いでした。「健全な懐疑論者であれ」への私の一歩はおぼつかなく心細いものですが、この冊子を指南書に歴史からどう学ぶのか、学べているか、考える習慣が身に着けているかを常に問い続けたいと思います。

●友人よりご著書借用、驚愕しました。全くこのご本のような視点を持っておりませんでしたので、考える資料となりました。ありがとうございました。20冊注文いたします。

●知人から送られた『ウクライナ戦争論』、拝読しました。戦争はアメリカの長期戦略が誘発したものであること、ノルドストリームはアメリカが仕掛けて爆破させたものであることなど、「目からウロコ」の情報が満載で、戦争を考え直す機会になりました。読書会のメンバーにも提供したいと思い至りました。5部、注文します。

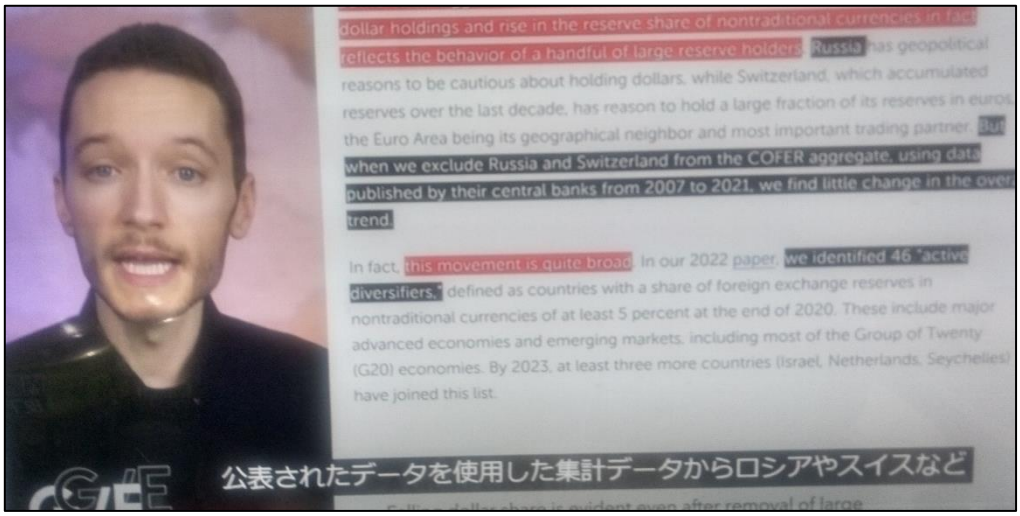
●俳誌『いき』の「あとがき」より：ある新聞の歌壇で、「戦争を学べば学ぶほどわかる日本とロシア同じあやまち」「ウクライナの主権侵せるプーチンを怒りて町にスタンディングす」が入選歌となっています。「ロシア批判、ウクライナ支援」の報道がされている中、ロシアはかつての日本と同じ過ちをしていると捉えて活動されているのではないかと思います。そんな方にはちょっと立ち止まって『安斎育郎のウクライナ戦争論』を手に取っていただきたいと思います。

最近、「八十路の老爺にもちょっと調べればこの程度のことが分かるのに、どうして日本を含む西欧諸国の人々の多くが誤った戦争観に導かれてしまったのだろう」と慨嘆しつつ、本書を書いた意義を反芻しています。どうぞじっくり読んで、お広め下さい。

❸ 脱ドル化が進んでいる：米連邦準備制度理事会（FRB）も（渋々ながら）認める（2024 年 6 月 25 日）

※安斎注：自動翻訳で日本語をお読み下さい。重要な内容です、

https://youtu.be/c3Dsy7q1Miw

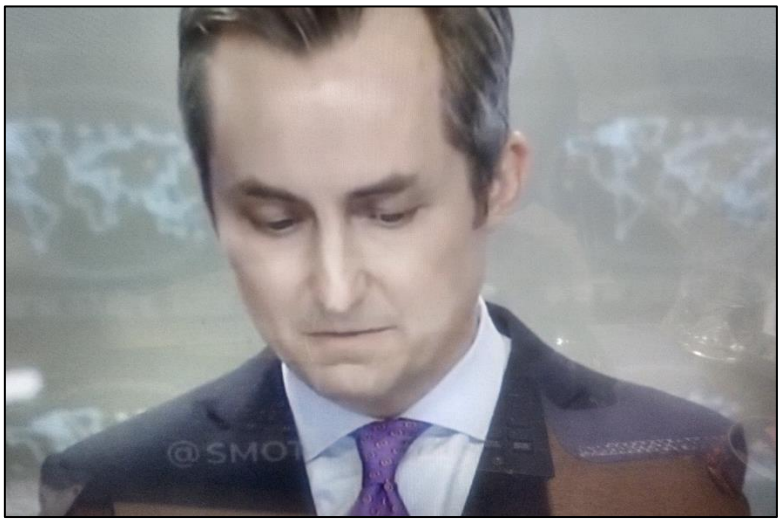


https://www.youtube.com/watch?v=c3Dsy7q1Miw

❹マシュー・ミラー（国務省報道官）の弁（2024 年 6 月 25 日）

「我々はこの戦争で民間人が犠牲になったことを遺憾に思うが、ウクライナが自国の領土、もちろんウクライナの一部であるクリミアを含む領土を防衛できるよう、我々はウクライナに武器を提供する」

https://x.com/i/status/1805440272425443511



https://x.com/amatsuda7/status/1805440272425443511?s=09

❺ ウクライナの人気ジャーナリストが、普通のウクライナ人を代表して世界に発信（2024年6月 25 日）　※安斎注：必見映像です。

主流メディアが取り上げること、ソーシャルメディアで拡散されることを希望しています。

https://x.com/i/status/1805440711460110705

https://x.com/ShortShort News/status/1805440711460110705?s=09

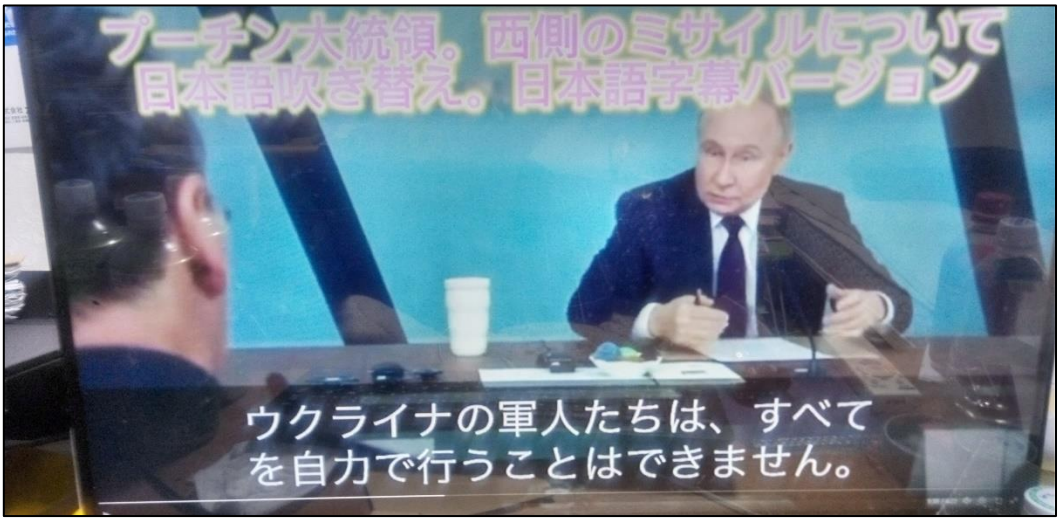
❻ 核危機についての矢野義昭氏の見立て（2024年6月25日）

ロシア下院国防委員会カルタポロフ委員長は 23 日、核兵器使用の基本原則を見直し、使用について判断する時間を短縮する可能性があると述べたと、ロシア国営通信RIAが伝えました。NATO 事務総長発言に対抗した措置ですが、どちらも恫喝で、核使用の敷居が下がった訳ではなく勝敗は地上戦で決まります。

❼西側によるロシアへのミサイル攻撃についてのプーチン発言（2024年6月25日）

※注：日本語でイヤホンで聴けます。日本語吹き替えでのプーチン大統領の西側のミサイル攻撃のエスカレーションに対する発言です。

https://x.com/i/status/1805426638840283514



https://x.com/w2skwn3/status/1805426638840283514?s=09